

ラグビーワールドカップ2019™ファンゾーン運営計画（素案）について

- ファンゾーンは、ラグビーワールドカップ開催期間中、開催都市が設置
- 昨年7月に、ファンゾーン会場の候補地を選定し申請。本年1月にRWC2019組織委員会が承認
- 都では、ファンゾーンを大会を象徴するものとして、全ての人が、国籍や性別、応援するチーム等の垣根を越え、輪を広げる場とすることとし、4月の「運営計画」策定を目指す。

1 会場・コンセプト等

	多摩会場（調布）	区部会場（有楽町）
会場	調布駅前広場・調布市グリーンホール (ホールが利用できない日は、代替会場を確保)	旧1000days劇場
開催日時	開催日は、東京スタジアムでの試合日及び大会期間中の土・日曜日（合計15日間）を想定 開催時間はプール戦は12～22時、決勝トーナメントは14～22時を基本に、東京スタジアムでの試合開始・終了時間を踏まえ設定	
コンセプト	試合会場との一体性を確保し スタジアムの玄関として 試合への期待と試合後の余韻を創出	丸の内・銀座エリアに広がりを持たせ 東京・日本の玄関として 国内外の来場者をおもてなし
主な想定来場者	国内外のチケットホルダー、ラグビーファン、ファミリー	ラグビーファン、外国人(主にノンチケットホルダー) 観光客・買い物客、ビジネスパーソン
想定来場者数	期間中合計 75,000人 (1日当たり平均 5,000人)	期間中合計 75,000人 (1日当たり平均 5,000人)

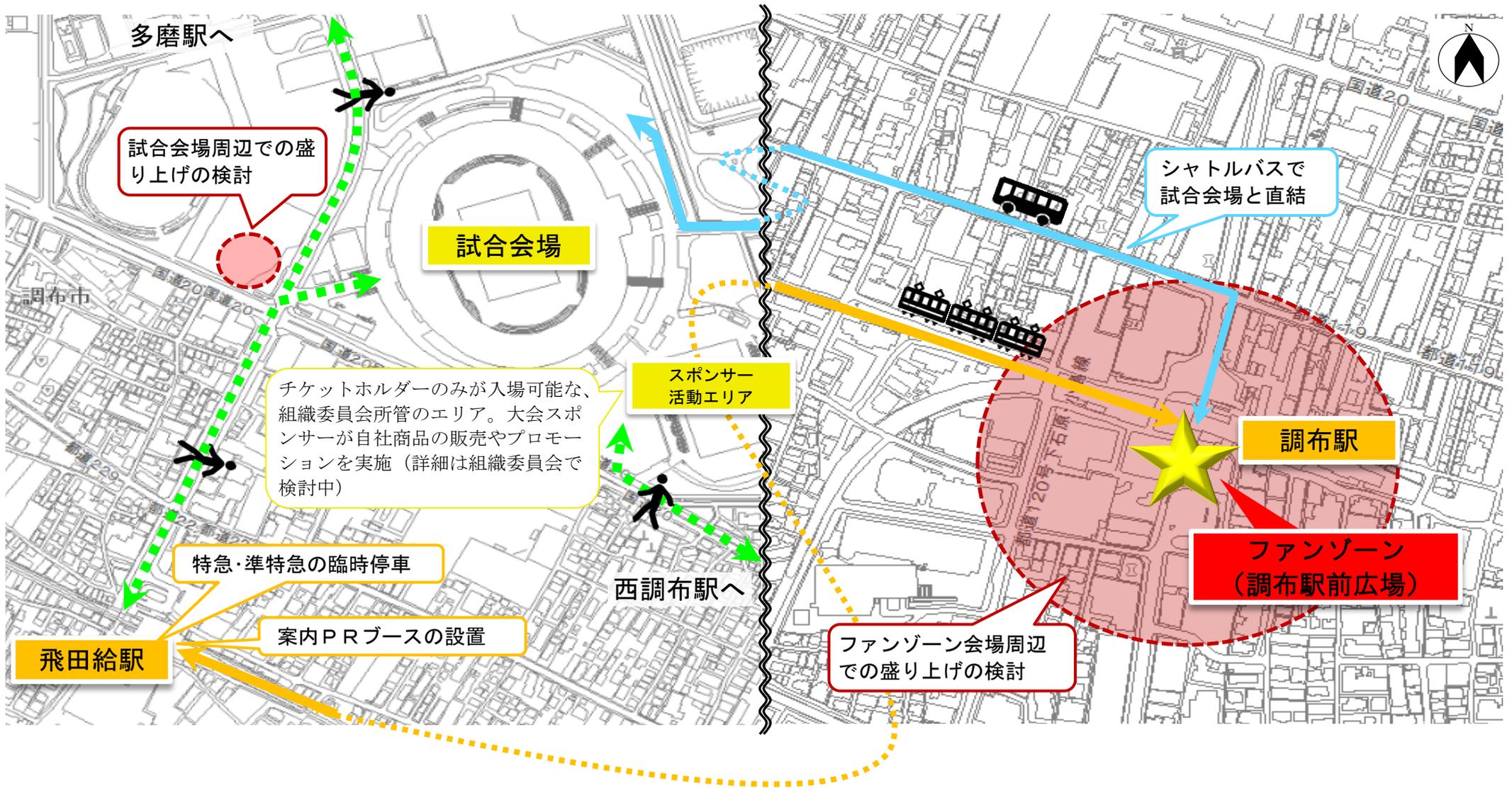
2 実施項目

- パブリックビューイング・ラグビー体験・ケータリング・グッズ販売・スポンサーブース
- 外国人等に向けた東京PR（地元の物産、観光、名所等の紹介）

【多摩会場コンセプト】

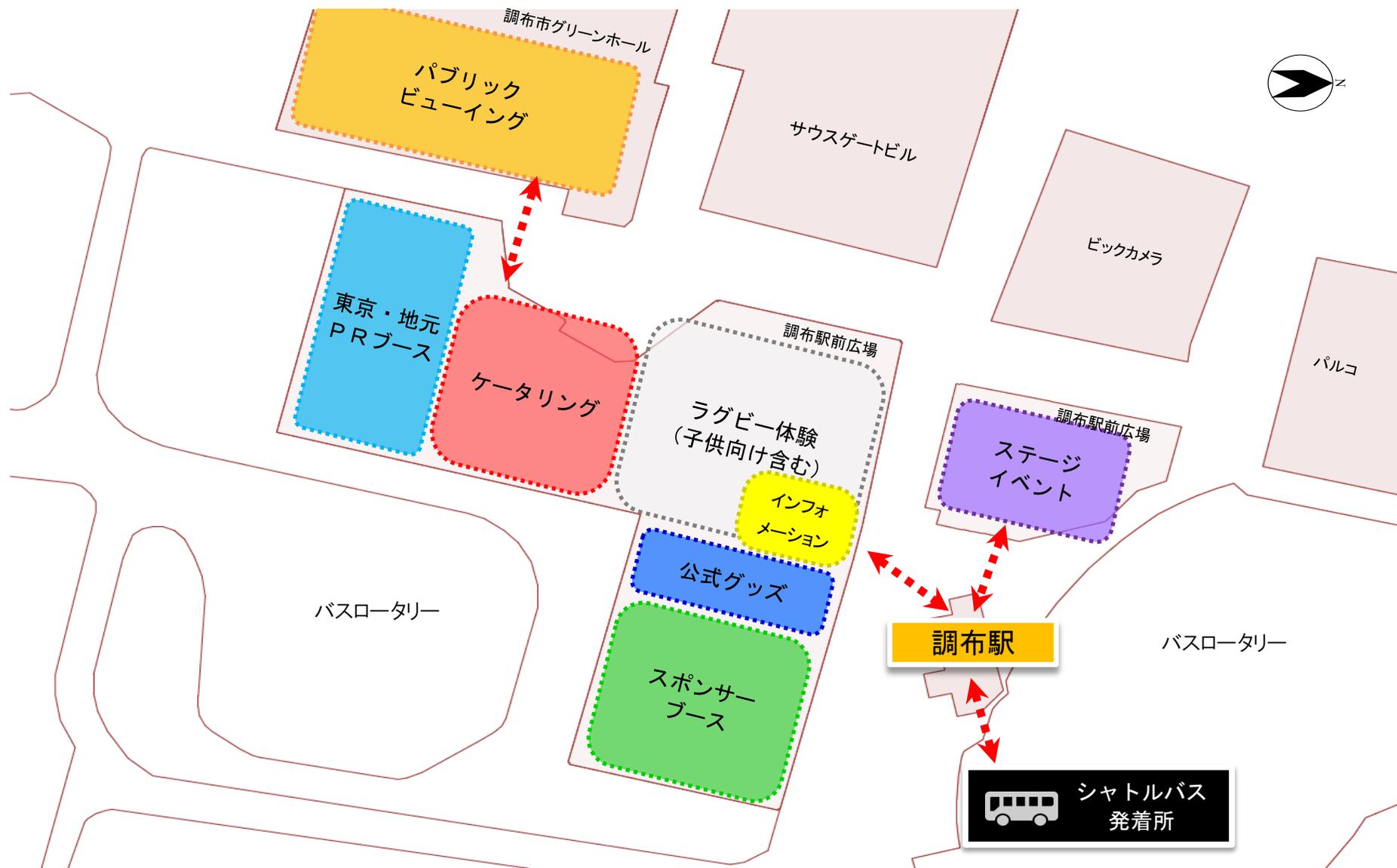
「試合会場との一体性を確保し、スタジアムの玄関として、試合への期待と試合後の余韻を創出」

～ 試合への期待を高め、試合後は余韻を楽しむ場所としての位置付けを担うものとしてファンゾーンを運営 ～



【多摩会場の概要図（イメージ）】 調布駅前広場・調布市グリーンホール

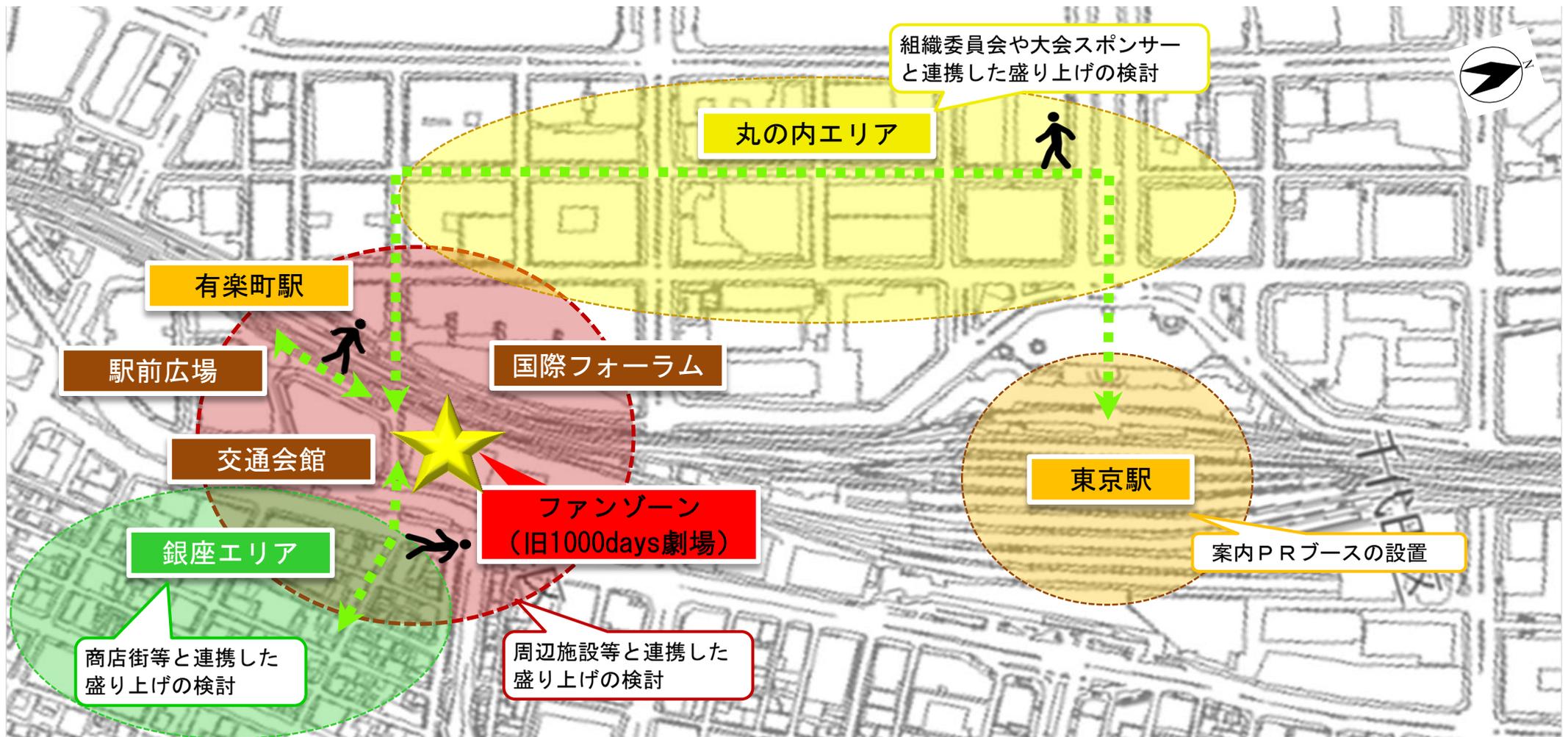
※レイアウトや内容は今後変更の可能性あり



【区部会場コンセプト】

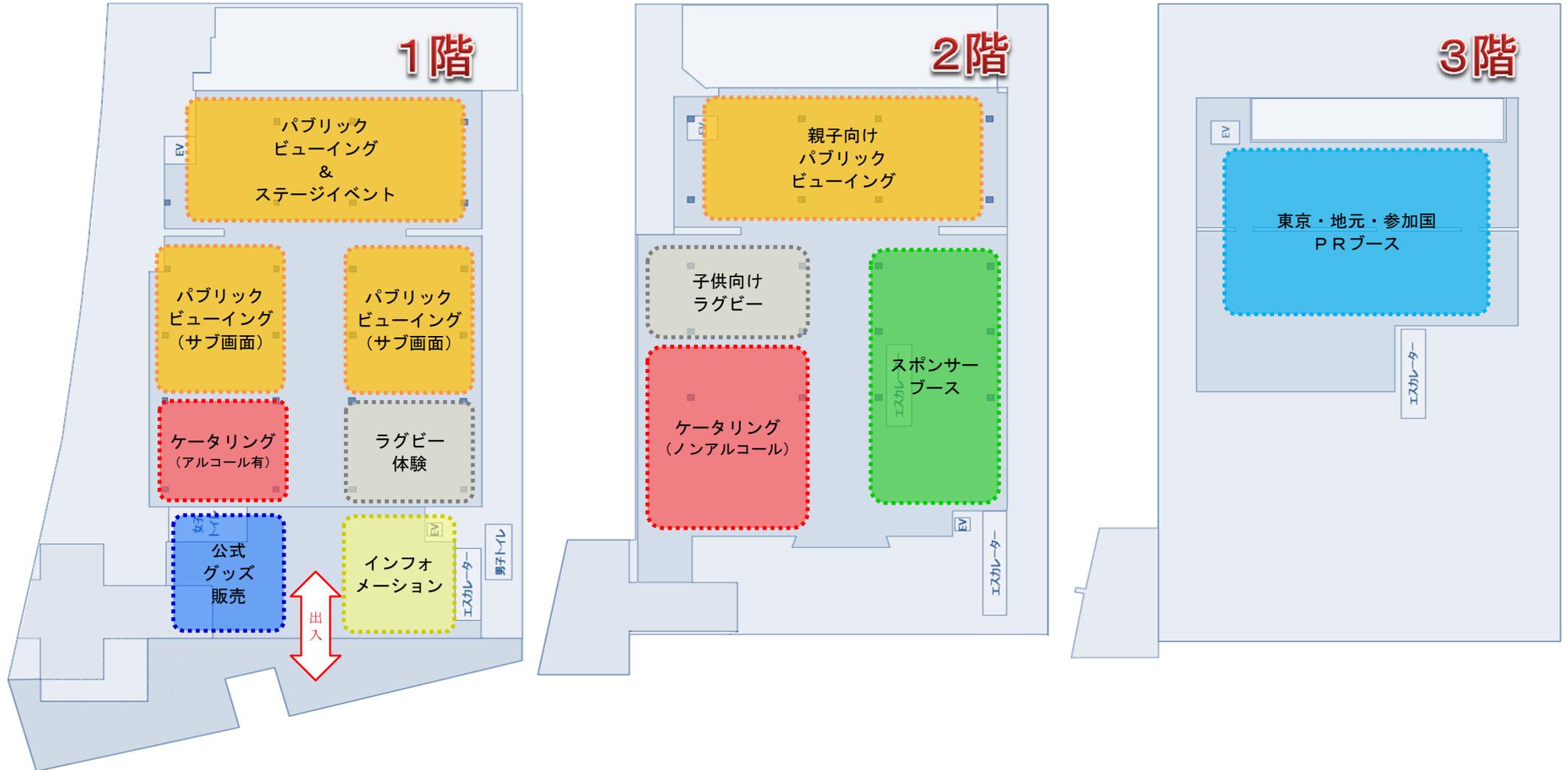
「丸の内・銀座エリアに広がりを持たせ、東京・日本の玄関として、国内外の来場者をおもてなし」

～面的広がりを出し、ラグビーワールドカップを広くPRするとともに、その中心拠点としてファンゾーンを運営～



【区部会場の概要図（イメージ）】旧1000days劇場

※レイアウトや内容は今後変更の可能性あり



ラグビーワールドカップ 2019™
ファンゾーン in 東京
運 営 計 画

(素案)

平成 3 1 年 1 月

東 京 都

1 総論

1-1 実施にあたっての前提

- ファンゾーンとは、ラグビーワールドカップ 2019™（以下、「RWC2019」という。）の開催期間中に開催都市に設置され、大型スクリーンによる試合映像の放映（パブリックビューイング）や、ケータリングによる飲食の提供、RWC2019 のコマーシャルパートナーによるプロモーション活動、ラグビーの普及活動等が行われる場である。
- ファンゾーンの開催は、公益財団法人ラグビーワールドカップ 2019 組織委員会（以下、「JR2019」という。）と開催都市である都との間で締結した「ラグビーワールドカップ 2019 開催基本契約」に規定され、都はこれを提供する義務を負っている。
- JR2019 は、「ラグビーワールドカップ 2019™ ファンゾーンガイドライン」（以下、「ガイドライン」という。）を策定し、各開催都市がファンゾーンの開催にあたり、遵守すべき事項等を取りまとめている。都は、このガイドラインを踏まえ検討を進め、会場候補地については、昨年 7 月に選定し、JR2019 から本年 1 月に承認を得た。今後、JR2019 等の関係機関と調整を図りながら、本年 4 月の「ラグビーワールドカップ 2019™ ファンゾーン in 東京 運営計画」策定を目指し、準備を行っていく。

1-2 会場・基本コンセプト

1-2-1 基本的考え方

- ファンゾーンは、試合チケットの有無に関わらず、無料で誰もが気軽に訪れることができる場である。
- 試合開始前には、ファンゾーンにおいて、試合への期待を大いに膨らまし、試合後には試合を振り返り、その余韻を楽しむ。友人・知人同士だけでなく、全ての人が、国籍や性別、応援するチーム等の垣根を越え、ラグビーを愛する心を持って真剣に語り、打ち解けあい、その輪を広げていく場となるものである。
- すなわちファンゾーンは、単にパブリックビューイングやラグビーの普及活動が行われる場であるだけでなく、RWC2019 を象徴する場としていくことが求められるものである。
- ファンゾーンでは、「大会ビジョン」である「絆 協創 そして前へ」を実現させる必要がある。試合以外に敵味方はないという「ノーサイドの精神」を、訪れた全ての人ができる場としなければならない。都におけるファンゾーンは、こうした考え方を基本とし検討を進めていく。

ラグビーワールドカップ 2019 大会ビジョン

(JR2019 作成)

「絆 協創 そして前へ」

日本と世界の人々を強い絆で結び、
誰も経験したことのない、
ラグビーと仲間たちの祭典を協創しよう。
すべての人の輝く未来へ、進もう心をひとつに。

- また、JR2019 は、ファンゾーンの運営ビジョンと運営方針を定めたものとして「ファンゾーンポリシー運営ビジョン」を以下の通り規定。ファンゾーンの検討にあたっては、これも念頭に置きながら進めていくことが必要である。

ラグビーワールドカップ 2019 ファンゾーンポリシー運営ビジョン

(JR2019 作成)

- ・ **誰もが気軽に集い、楽しめる場所の提供**

ラグビーファンのみならず、家族連れ・子どもたちをはじめ老若男女ラグビーに馴染みがない人たちも気軽に集い、楽しみ、交流できるファンゾーンとする。試合観戦やラグビー体験等を通じてラグビーの精神を広く発信し、国内におけるラグビーファンを更に拡大させるとともに、ラグビーを真のグローバルスポーツとして発展させることに貢献する。

- ・ **地域の特色ある雰囲気への創出**

日本的「お祭り」の雰囲気や食文化の提供等、12 開催都市が各都市の特色を生かしたファンゾーン空間を演出し、訪れたすべての人を最大限のおもてなし精神をもって歓迎する。

- ・ **興奮と感動の共有**

訪れたすべての人たちがラグビーワールドカップ™の興奮と感動を共有し、忘れられない記憶を刻む観客体験を創出する。

1-2-2 会場

- ファンゾーンの会場は、都が選定し JR2019 を通じてラグビーワールドカップリミテッド（以下、「RWCL」という。）の承認を経て決定される。会場の選定にあたっては、日常的に人通りが多く、訪日外国人を含め誰にでもアクセスしやすい場所に設置することが求められている。
- 都においては、試合会場（東京スタジアム）が所在する多摩地域に1か所（ただし、交通負荷軽減のため試合会場の周囲は避ける）、大会期間中の全都的な盛り上げを図るため、区部にも1か所設置することとし、次の会場候補地を選定。平成30年7月にJR2019に申請を行い、平成31年1月に承認を得た。

【多摩会場】

- ◆ **名 称**：調布駅前広場・調布市グリーンホール

- ◆ **住 所**：調布市小島町2-47-1 ほか（調布駅徒歩1分）

- ◆ **特 徴**

- ・ 調布駅前広場は、京王線調布駅付近連続立体交差事業により、平成24年に調布駅が地下化されたことに伴い、整備
- ・ 調布市グリーンホールは、調布市が設置した施設であり、財団法人調布市文化・コミ

ユニティ振興財団が指定管理を受託。大ホール（定員 1,307 人）及び小ホール（定員 300 人）がある。

- ・ 周辺には商業施設や文化施設等が集積。バスロータリーが南北に整備されており、JR 三鷹駅や渋谷駅、小田急線狛江駅、田園都市線二子玉川駅方面へ向かうバスが運行。また京王線調布駅は、京王線（本線）と京王相模原線との分岐駅であり、特急の停車駅である。
- ・ RWC2019 開催時には、試合会場である東京スタジアムとバスロータリー間を結ぶシャトルバスを運行（予定）するとともに、京王線飛田給駅に急行系列車（急行・準特急・特急）を臨時停車（予定）させることで、ファンゾーンを試合会場と一体のものとして運営していくことが可能

◆その他

- ・ 調布市グリーンホールが利用できない日は、代替会場の確保について検討・調整

【区部会場】

◆名 称：旧 1000days 劇場

◆住 所：千代田区丸の内 3-8-3（有楽町駅徒歩 1 分）

◆特 徴

- ・ 旧東京都丸の内庁舎跡地に開設された劇場の跡地施設であり、都が所有
- ・ JR 有楽町駅、東京メトロ有楽町駅の直近であり、周囲にはその他にも東京駅、銀座駅、銀座一丁目駅、日比谷駅、宝町駅、二重橋駅等があり、いずれの駅からも徒歩で来場することも可能
- ・ 周辺には、皇居や銀座、丸の内等、都を象徴するエリアが集積し、国内外から観光客・買い物客が多く訪れ、平日にはビジネスパーソンも多い。
- ・ RWC2019 期間中には、東京駅を経由して試合会場やファンゾーンに訪れる人が多いと考えられる。東京駅から有楽町駅へと続く一帯の地域で、RWC の盛り上げを図ることにより、更なる PR 効果が期待できる。

1-2-3 基本コンセプト

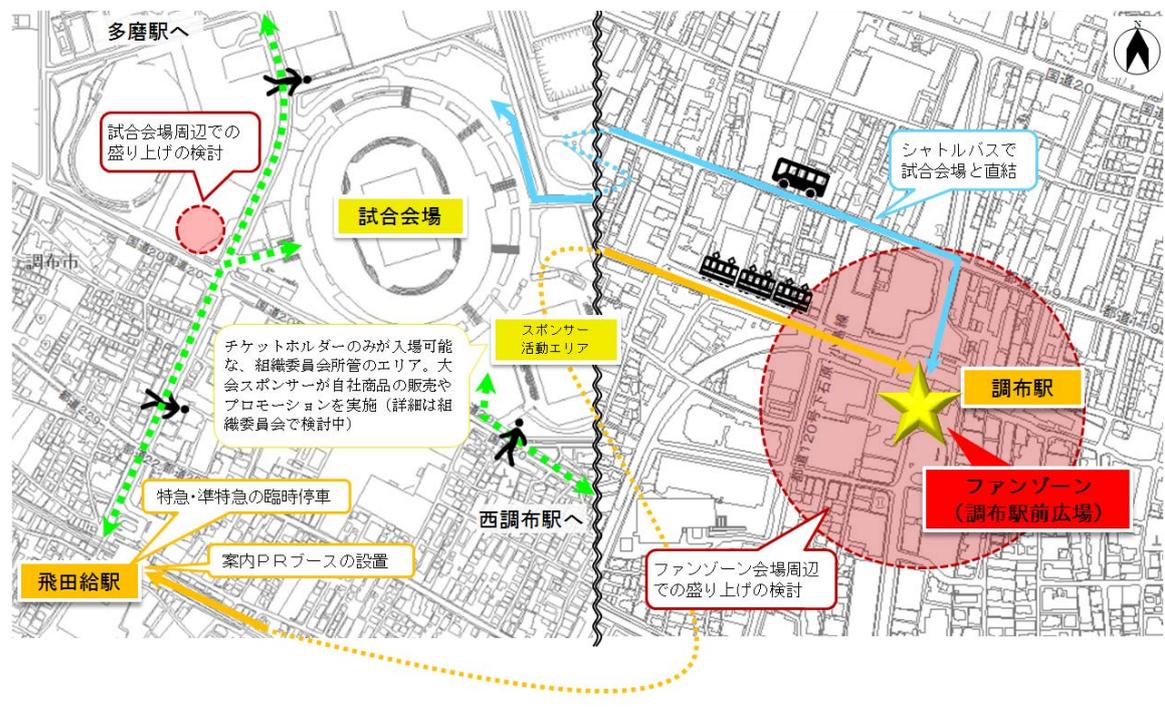
- ファンゾーンの基本コンセプトは、「1-2-1 基本的考え方」を踏まえ設定する。多摩会場と区部会場では、立地等の点で異なることから、上記の大会ビジョンをファンゾーンにおいて効果的に実現していくためには、それぞれの立地特性を十分に考慮し、個別にコンセプトを設定することが必要である。

【多摩会場 基本コンセプト】

試合会場との一体性を確保し、
スタジアムの玄関として、
試合への期待と試合後の余韻を創出

- ・ 国内外のラグビーファンが交流できる空間を創出
- ・ 試合会場である東京スタジアムとの一体感を創出
- ・ ファンゾーンだけに止まらず、調布市や地元商店街等とも連携し、都市装飾や飲食提供等により、街全体を活用して大会を盛り上げ

試合への期待を高め、試合後は余韻を楽しむ場所の位置付けを担うものとしてファンゾーンを運営していく。



【区部会場 基本コンセプト】

丸の内・銀座エリアへの広がりを持たせ、
東京・日本の玄関として、
国内外の来場者をおもてなし

- ・ 有楽町駅周辺施設を活用し、ファンゾーン内外でラグビーワールドカップへの期待と興奮を共有
- ・ JR2019 や大会スポンサーと連携を図りながら、丸の内エリアにおける都市装飾やの気運醸成と一体感を創出
- ・ 東京駅への案内ブース設置や銀座エリアへの街灯フラッグ掲出等も実施することで、国内外の観光客等にもPRし、ファンゾーンへ集客させる。

面的広がり創出し、ラグビーワールドカップを広くPRするとともに、その中心拠点としてファンゾーンを運営していく。



1-3 開催日程

- ファンゾーンの開催日数について、ガイドラインは、以下の日を含み最低10日間開催するものとして、開催都市が設定すると規定している。都においては最低13日間となる。
 - (1) 自開催都市でのRWC試合開催日（都においては8日間）
 - (2) 全ての日本代表の試合（4日間。うち2日間は(1)と重複）
 - (3) RWC準決勝、決勝（3日間）
- 都においては、より多くの方々にRWC2019の興奮と感動を共有していただくため、ガイ

ドラインに規定された開催日数に加え、その他の土・日曜日を加えた以下の15日間を基本とする。

- ファンゾーンの開催時間について、ガイドラインは、以下の要素を考慮の上、開催都市が設定すると規定している。#
 - (1) 試合のキックオフ時刻
 - (2) 公共交通機関の営業時間
 - (3) 市民の安全確保
 - (4) 近隣住民への騒音の影響
- 都においては、上記の要素を考慮し、プール戦については12時から22時まで、決勝トーナメントについては14時から22時までを基本に、東京スタジアムでの試合開始・終了時間を踏まえ、柔軟に設定していく。

日付	試合	東京スタジアム	開催時間
9月20日(金)	開会式 プール戦	試合あり	【プール戦】 12時00分～22時00分 を基本として検討・調整
9月21日(土)	プール戦	試合あり	
9月22日(日)	プール戦		
9月28日(土)	プール戦		
9月29日(日)	プール戦	試合あり	
10月5日(土)	プール戦	試合あり	
10月6日(日)	プール戦	試合あり	
10月12日(土)	プール戦		
10月13日(日)	プール戦		
10月19日(土)	準々決勝	試合あり	【決勝トーナメント】 14時00分～22時00分 を基本として検討・調整
10月20日(日)	準々決勝	試合あり	
10月26日(土)	準決勝		
10月27日(日)	準決勝		
11月1日(金)	3位決定戦	試合あり	
11月2日(土)	決勝、閉会式		

1-4 来場者想定

- ファンゾーンについて、会場の広さやコンテンツ、立地特性等の要素を踏まえ、開催期間中、それぞれ1日当たり平均5,000人、合計で1日当たり平均10,000人。15日間で総計150,000人の来場を想定する。

会場	1日当たり来場者想定数
多摩会場（調布駅前広場・調布市グリーンホール）	平均 5,000人
区部会場（旧1000days劇場）	平均 5,000人
1日当たり合計	平均 10,000人

2. コンテンツ

2-1 基本的考え方

- ガイドラインにおいては、「2-2 基本コンテンツ」を実施するエリアをファンゾーンに設置することが求められており、その具体的な内容については、都において検討し、JR2019の承認のもと実施していくこととなる。
- 上記「1-2-3 基本コンセプト」を表現していくためには、ファンゾーンで実施するコンテンツの内容に創意工夫を凝らし、都ならではのものとし、来場者に高い満足感を得てもらえるものとする必要がある。
- そのためには、両会場の地域特性を十分に踏まえ、ファンゾーンへ来場する方々を想定するとともに、施設の特性によって生じる効果や制約等を踏まえ検討を行っていくものとする。

2-2 基本コンテンツ

- ガイドラインにおいては、以下のスペースを確保することが規定されており、ファンゾーンの基本コンテンツとして実施することが求められている。
 - (1) パブリックビューイング
 - (2) スポンサーブース
 - (3) 公式グッズ販売
 - (4) ケータリング
 - (5) ステージイベント
 - (6) ラグビー体験
- なお、これら以外のコンテンツについても RWCL が事前に承認したものについては実施することができることされており、都においては、都や地域の魅力を発信できるコンテンツの実施に向けて検討を行うものとする。

2-3 会場の特色

2-3-1 多摩会場の特色

<地域特性>

- ・調布市の人口は各世代にバランスよく分布し、幅広い年齢層が在住
- ・京王線沿線には大学や高校が多く、他路線よりも学生利用者が多い。
- ・トップリーグのラグビークラブチームが多数存在
- ・試合会場に近接するため、試合日はチケットホルダー（外国人を含む）が多く来場することが見込まれる。
 - 想定される主な来場者は、国内外のチケットホルダー、ラグビーファン、ファミリー、学生 等

<施設特性>

- ・公共空間・公共施設であるため常設ができず、週毎に設置・撤去が必要
- ・駅前広場が屋外であるため天候や騒音等の課題がある。

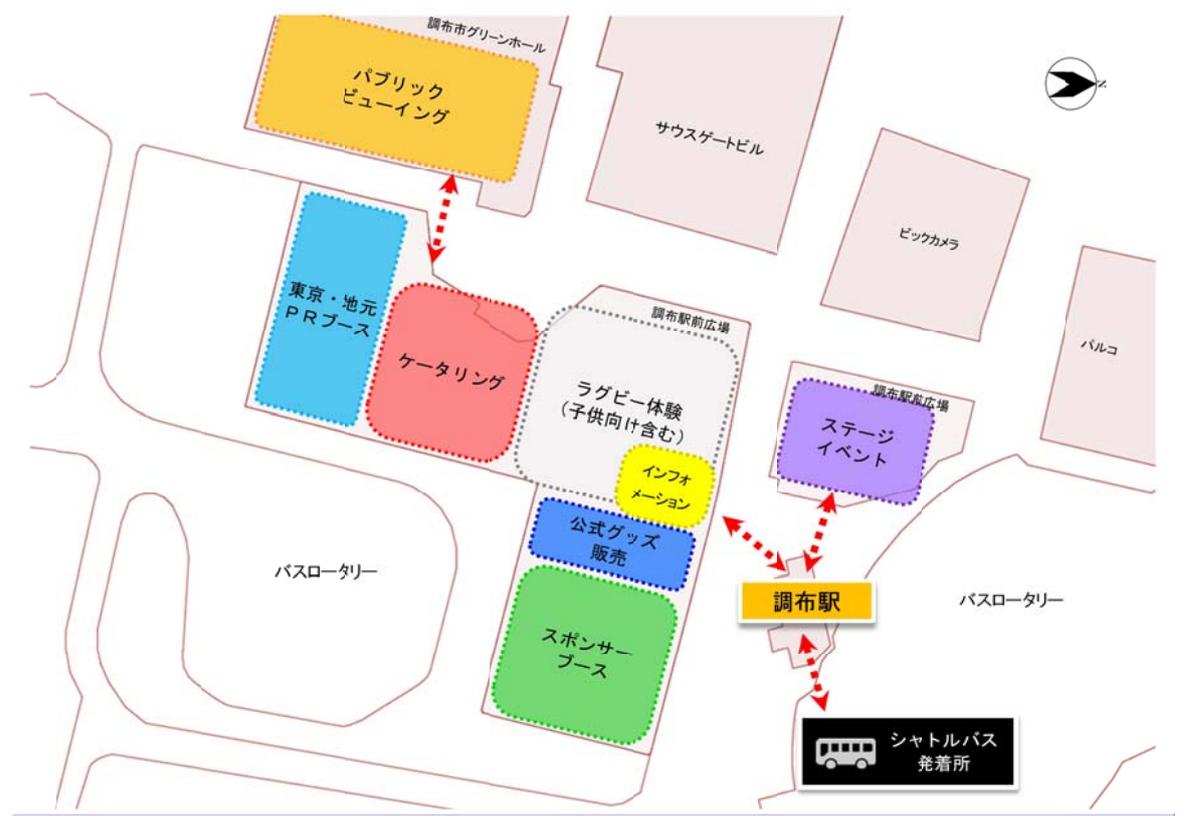
- ・開放感があり、賑やかな様子が多くの人に伝わりやすい。
- 体験や交流を基本とした内容により、「する」ことを通じた特別感の創出を中心に設定

【多摩会場における特色ある取組】

誰もが気軽に参加できるトップレベルのラグビー体験

- ・ 都内ラグビークラブチームと連携した本格的なラグビーアクティビティや、試合前・中・後における解説・トークショーの実施
- ・ 試合日と試合日以外で異なる来場者（主に外国人）を踏まえたコンテンツの検討

【多摩会場の概要図（イメージ）】※レイアウトや内容は今後変更の可能性あり



2-3-2 区部会場の特色

＜地域特性＞

- ・ 外国人を含む多くの観光客・買い物客が来訪
- ・ 有楽町駅は30～40代が50%程度、50代が20%程度
- ・ 銀座駅は女性利用者が50%超
- ・ 試合会場から離れているため、大会期間中はノンチケットホルダーが多く来場することが見込まれる。

→ 想定される主な来場者は、ラグビーファン、外国人（主にノンチケットホルダー）、観光客・買い物客、ビジネスパーソン 等

<施設特性>

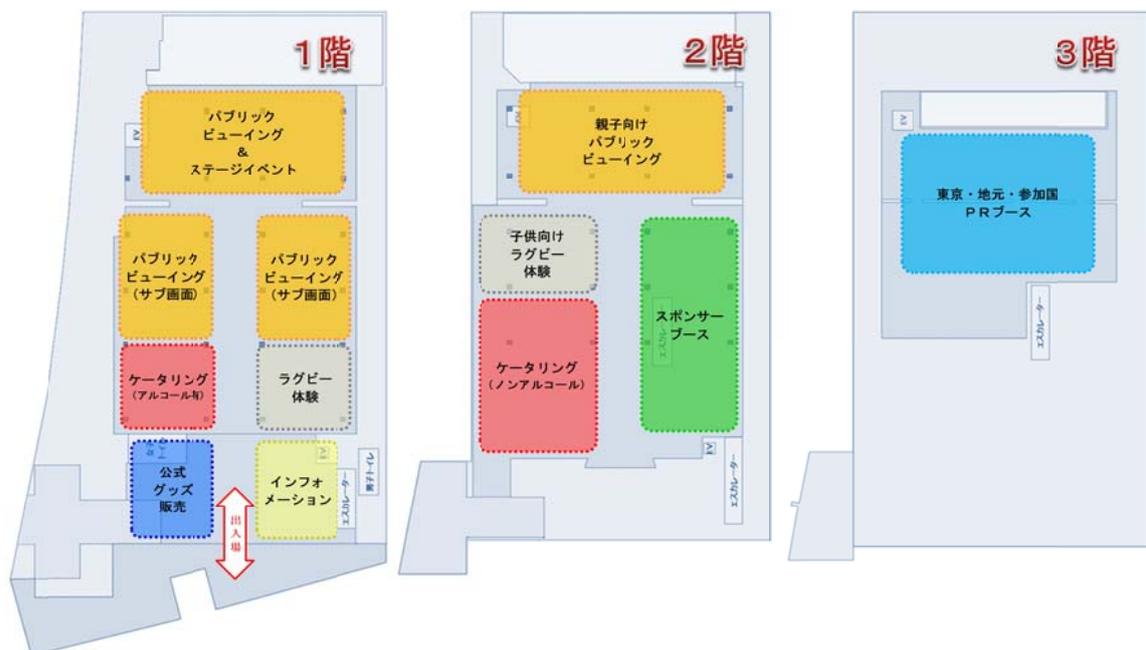
- ・ファンゾーン会場として期間中の独占利用ができ、常設が可能
 - ・屋内施設であるため天候や騒音等による影響なし。
 - ・3フロアに分かれており、来場者がそれぞれで楽しめる内容の充実が必要
- 装飾や光・音を活用した演出により、「みる」ことを通じた特別感の創出を中心に設定

【区部会場における特色ある取組】

世界を感じる飲食とともに臨場感あふれるラグビー観戦

- ・ 大型ビジョンによるパブリックビューイングにより特別感を創出
- ・ 出場国の選手や文化等を紹介するブース設置や出場国に因んだ飲食の提供

【区部会場の概要図（イメージ）】 ※レイアウトや内容は今後変更の可能性あり



3. 実施にあたっての留意点

3-1 警備

- ファンゾーンにおける事故を未然に防ぎ、また、万が一事故が発生した場合には、警視庁や東京消防庁等の関係機関と連携を図り、迅速に適切な対応できる体制を検討する。
- ガイドラインにおいては、「会場の周囲には、セキュリティの観点からイベント用のフェンス等を設置」することが、JR2019が策定した「警備実施要領」においては、「入場ゲートにおいてスクリーニングを実施」することが規定されている。これを踏まえ、両会場の特性に応じた警備方法を検討する。

3-2 医療

- 各会場に看護師等を配置し、適切な応急措置が実施できる体制を検討する。
- 状況に応じ、救急対応ができるよう、東京消防庁や各医療機関と連携する。

3-3 ボランティア

- ファンゾーンの実施にあたっては、大会ボランティアの方々にご協力をいただき、来場者の案内誘導や、おもてなしを行っていく。

3-4 多言語対応

- JR2019が試合会場周辺における誘導サインの基準として策定した「誘導サインガイドライン」においては、誘導サインは「日本語と英語を使用し、英語を上部に配置して二言語で表記」することが規定されている。ファンゾーンにおいても、試合会場との統一性を図るため、これに準じた対応を図るものとする。
- また、東京スタジアムで試合が開催される日については、応援に訪れた外国人が、ファンゾーンに多く来場することが見込まれることから、更なる多言語対応の実施を検討する。

3-5 アクセシビリティ対応

- 高齢者や体の不自由な方、小さな子供連れの方なども安心して来場でき、楽しむことができるものとする。具体的には、多目的トイレの設置、車椅子が通れる通行幅の確保、車椅子用パブリックビューイングスペースの確保等に向けて検討する。

ラグビーワールドカップ2019™ ファンゾーン開催日について

- ・ファンゾーン開催日 (15日間・)
- ・日本代表戦 (赤字) 東京スタジアム試合日 (青字)

week	月	火	水	木	金	土	日
week 1					9/20 19:45~@東京 日本 vs ロシア	21 13:45~@札幌 オーストラリアvsフィジー 16:15~@東京 フランスvsアルゼンチン ニュージーランドvs南アフリカ	22 14:15~@東大阪 イタリヤvsナミビア 16:45~@横浜 アイルランドvsスコットランド 19:15~@札幌 イングランドvsトンガ
week 2	23 19:15~@豊田 ウェールズvsジョージア	24 19:15~@熊谷 ロシアvsサモア	25 14:15~@釜石 フィジーvsウルグアイ	26 16:45~@博多 イタリヤvsカナダ 19:45~@神戸 イングランドvsアメリカ	27	28 13:45~@東大阪 アルゼンチンvsトンガ 16:15~@静岡 日本vsアイルランド 18:45~@豊田 南アフリカvsナミビア	29 14:15~@熊谷 ジョージアvsウルグアイ 16:45~@東京 オーストラリアvsウェールズ
week 3	30 19:15~@神戸 スコットランドvsサモア	10/1	2 16:45~@博多 フランスvsアメリカ 19:15~@大分 ニュージーランドvsカナダ	3 14:15~@東大阪 ジョージアvsフィジー 19:15~@神戸 アイルランドvsロシア	4 18:45~@静岡 南アフリカvsイタリヤ	5 14:15~@大分 オーストラリアvsウルグアイ 17:00~@東京 イングランドvsアルゼンチン 19:30~@豊田 日本 vs サモア	6 13:45~@東京 ニュージーランドvsナミビア 16:45~@熊本 フランスvsトンガ
week 4	7	8 19:15~@神戸 南アフリカvsカナダ	9 13:45~@熊谷 アルゼンチンvsアメリカ 16:15~@静岡 スコットランドvsロシア 18:45~@大分 ウェールズvsフィジー	10	11 19:15~@静岡 オーストラリアvsジョージア	12 13:45~@豊田 ニュージーランドvsイタリヤ 17:15~@横浜 イングランドvsフランス 19:45~@博多 アイルランドvsサモア	13 12:15~@釜石 ナミビアvsカナダ 14:45~@東大阪 アメリカvsトンガ 17:15~@熊本 ウェールズvsウルグアイ 19:45~@横浜 日本vsスコットランド
week 5	14	15	16	17	18	19 16:15~@大分 準々決勝 19:15~@東京 準々決勝	20 16:15~@大分 準々決勝 19:15~@東京 準々決勝
week 6	21	22	23	24	25	26 17:00~@横浜 準決勝1	27 18:00~@横浜 準決勝2
week 7	28	29	30	31	11/1 18:00~@東京 三位決定戦	11/2 18:00~@横浜 決勝	3